



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

1月12日号

令和8年1月12日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



「志」を持ち、「どんな景色が見えるか」挑戦する 3学期

本年もよろしくお願ひいたします



3学期が始まりました。子どもたちの元気な姿を見ると、また頑張ろう！と力が湧いてきます。良い1年となるよう、学校の総力を挙げ、発展的な魅力ある授業、主体性を育む体験的活動、良好な人間関係の醸成に向けて、リオ日学の教育を充実させてまいります。

「縁」この夏休み、旅先でたくさんのご縁と出会い、助けていただく経験をしました。

皆様とのご縁を大切にして、子どもたちへ小さな種まきを続けてまいります。

＜始業式校長講話より 1月5日＞

あけましておめでとうございます。良い夏休みを過ごすことができましたか？

今日から始まる3学期は、皆さんにとって、進級・卒業に向けた準備の時です。この夏休み、受験を控えた仲間たちにとって、不安に押しつぶされそうときもあったでしょう。下級生は、学校生活に慣れてきた一方、成長する過程で何かしら目標を定めて、日々、小さな努力の積み重ねをしていく時です。私たちは、みなさんが気持ちよく過ごせるよう、3学期も全力で応援していきます。

世界に目を向けると、ウクライナやガザ地区の戦争など先の見えない悲しい出来事が続いています。日本では、2年前の1月1日に発生した能登半島地震から復興も半ばで、深い悲しみの中にいる人々がたくさんいます。その方々を支えた谷川俊太郎さんの『今年』という詩を読んでみます。(右に掲載)

この詩の味わいは、「今年もささやかな幸せがあり それは大きな不幸を忘れさせることはできぬだろう」と、亡くなった魂を忘れえぬ一方で、「けれど」のあとに、「御飯のおいしい日があるだろう 新しい靴を一足買うだろう 今年も遊びがあるだろう 生きてゆくかぎり」と、何気ない日常に喜びを感じ、少しでも悲しみから喜びへ変わっていくことを期待する詩です。

12月5日の終業式で、私は皆さんに『志』の話をしました。「1月1日元旦、新年の『志』を持ち自分らしく過ごせる1年となることを祈

りましょう。」と話しました。どうですか？志を持つことができましたか？まだ、ぼんやりとした考えの人も、目の前の現実的な学習に追われている人も、どうぞ、この詩のように、「去年とは違う、前向きで少し活発で、日常の中にも小さな変化が期待できる『今年』」を楽しみに3学期をスタートさせましょう。詩の力を信じて、恐れることなく、守ることなく、何ごとにも挑戦し、その先に「どんな景色が見えるか」を期待して、がんばってみましょう。でも、我武者羅にがんばれば良いのではなく、人の意見に耳を傾けることを忘れてはなりません。自分の見えないところが人には見えるのです。先生方は、皆さんにふさわしい考え方をアドバイスできるように、皆さんの声に耳を傾けたいと思います。さあ、新しい1年の第一歩を踏み出しましょう。

涙があるだろう
今年も
涙ながる歌があるだろう
固めたいがぶがあるだろう今年も
大笑いがあるだろう
あくびをするだろう
今年も
短い旅に出るだろう
そして帰ってくるだろう

農夫は野に書斎に
数学者は夜があるだろう
眠れぬ愛するだろう
今年もより小さなものを
自分を超えて大きなものを

くだらぬことに喜ぶだろう
今年も
今さやかなき幸せがあり
それには大きな不幸を
忘れさせることはできぬだろう
それし娘は背が伸びるだろう
御飯の樹もしい日があるだろう
新しい靴を一足買うだろう
決心は靴をぶるだろう今年も
しかし去年とちがうだろうほんの少し
今年

地平は遠く果てないだろう
宇宙へと大きなロケットはのぼり
子等は駆けてゆくだろう

今年も遊びがあるだろう
生きてゆくかぎり
いなむことのできぬ希望が